

## 令和元年度 第8回石狩市厚田区地域協議会 会議録

【日 時】 令和元年11月26日(火) 18:00~19:30

【場 所】 望来コミュニティセンター1階多目的ホール

【出席者】 12人(15人中)

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	築田 敏彦	○	委員	鎌田 憲一	○	委員	平賀 敏和	○
副会長	渡邊 教円	○	委員	小山 玲子	○	委員	丸山 真嗣典	○
委員	東 幸子		委員	今 光江		委員	森田 瞳	○
委員	大内 さつき	○	委員	笹谷 清一	○	委員	八木沼 英晃	
委員	加藤 亜弓	○	委員	角野 亮太	○	委員	吉村 貴文	○

※会長・副会長を除き、あいうえお順

企 画 経 済 部 ~三上主任

厚 田 支 所 ~西田支所長・相原 根樹課長・柳田生輝課長

地域おこし協力隊 ~今野隊員・江崎隊員・吉川隊員・飯塚隊員

事務局(地域振興課) ~高田課長・永塚主幹・佐藤主査・寺尾主査

厚田カンパニー構想検討準備会 佐藤勝彦氏

【傍聴者】 0名

【次 第】 1. 開会

2. 会長挨拶

3. 情報交換(リラックスタイム)

4. 協議事項

(1) 厚田区地域交通サービス検討委員会の設置について

5. 報告事項

(1) 厚田区地域おこし協力隊の活用検討について

(2) 厚田区自治懇話会について

(3) その他

6. その他

7. 閉会

## 1. 開会

### 【 (厚) 地域振興課 高田課長 】

開会の前に八木沼委員、東委員、今委員が欠席、吉村委員が遅れる旨の連絡があったので報告する。  
それでは只今より、第8回厚田区地域協議会を開催する。初めに築田会長よりご挨拶を申し上げます。

## 2. 会長挨拶

### 【 築田会長 】

皆さんこんばんは。10月15日に第8期の委員の委嘱を受け、実質的には今回が1回目の会議になる。

日が暮れるのも早くなり気温もどんどん下がってきているので皆さん風邪をひかない様に、これからも頑張っていたきたい。

今日は、佐藤準備会委員に住民アンケート会議の結果を踏まえ、新しい構想について提案をいただくため来ていただいているので後ほどお願いします。

## 3. 情報交流 (リラックスタイム)

- ・ハタハタ漁について (鎌田委員)
- ・厚田小中学校閉校式 (10/26) について (加藤委員)
- ・聚富小中学校閉校式 (11/10) について (今野隊員)
- ・聚富敬老会 (11/17) につい (笹谷委員)
- ・厚田ふるさと平和文学賞 (10/19) について (佐藤前会長)
- ・北前船フォーラム (道の駅での対応) (10/20) について (江崎隊員)
- ・コミュニティ・スクール研修会 (10/30) について (丸山委員)
- ・移住希望者の情報等について (角野委員)

## 4. 協議事項

### (1) 厚田区地域交通サービス検討委員会の設置について

#### 【 築田会長 】

では、厚田カンパニー構想準備委員会の佐藤準備会委員から説明をお願いします。

#### 【 佐藤準備会委員 】

(資料に基づいた説明であるが現時点では資料の一般公開はしない)

改めましてこんばんは。なにか古巣に帰ってきたような感じです。

(資料に基づいて) 厚田区地域交通サービス検討委員会設置案について提案させていただく。まずこれを設置する背景は何か。A3の縦長になるが、ふるさと創生プロジェクト厚田カンパニー構想という資料。これは皆さんも何度かご覧になっていると思うので、ここではあまり詳しく説明しないが、地域活性化に向けたこれまでの取り組みと今後について書いている。4段になっており1番上がこれまでの取り組み。住民自治の推進を協働で取り組んでおり、これまで8つの地域振興団体が立ち上がっている。また28年の6月、厚田ふるさと平和文学賞実行委員会が立ち上がっている。全部で9つの団体になる。

次に上から2段目、合併から12年が過ぎて地域と厚田支所はどうなったかという事がそこに書いてある。結論的に言うと大変不安要素が増えており、これは少子高齢化によって地域の人口減少、高齢化率の高まり、そして小中学生という若い子ども達が段々少なくなるという、正に少子高齢化の実態を我々は肌で感じているということである。

これは何も厚田だけでなく全国的にこういう傾向であり、厚田も全国と同じだからこのままで良いだろうと思っていたらまずい。何故まずいかという事をこれからお話するが、その為の不安要素を解決する為に、この地域と行政とが本当の意味で仕組み作りを考えていかなければいけない。

先程も全国的に同じ傾向だという事をお伝えしたが、1つ重要な事があって、今私達の社会はどういう社会かという、一言で言うと新自由主義。簡単に言うと小泉首相の時から始まった、要するに今までは行政主導の地域サービス

というものを、うんとスリム化し、その代わり行政が縛りつけてきた色んな規則や制度、そういうものをもっと自由化して住民や企業が何かをやりたいという事に対しては縛らないから自由にやって下さい、ただ自由にやるという事は自己責任ですというシステム、これが新自由主義。するとどういう事になるかという全国的に少子高齢化して来ているので、何処かの自治体或いは地域が一生懸命この対策に取り組むと。これは平等のチャンスであり、チャンスを掴む為に何かをやろうとする何処かに対して国・自治体が人もお金も支援する。その代わりやらないところには、人もお金も入って来ない。それが新自由主義。ですから全国を見渡すと一生懸命やっているところには人もお金も支援してくれている。ここが不安要素を解決するために地域と行政が協働で取り組むという意味。私達の社会は新自由主義だと抑えてほしい。だから何もやらなかったら人も予算も、国からも自治体からも入って来ませんよという事。

特に私の様な年齢は、これまで地域住民のサービスは行政がやってくれるという考えが当たり前であり、例えば自分の所の道路が壊れたら行政に「やってくれ」と電話すると、その当時はやってくれた。それは税金も十分に入っていた、少子高齢化じゃない時代。そのお祭り（のような時代）が終わったのが高度経済成長が終わった時期。そういう時代背景を考えると、私達は言ってみれば自転車操業をやっている様なもので、地域活性化の為に一生懸命自転車を漕いでいる。それでぱったりと倒れたら地域はずっと廃れていくだけという、これはもうある程度は宿命だと思って地域は一生懸命頑張るという意味。幸い厚田というのは行政や地域に協力するという人達が多い。それはこの地域から外に出てみればわかると思う。そういう地域の特性として将来像として考えたのがカンパニー構想。カンパニーというのは日本語で訳すと利益を追求していく「会社」の事だが、ここでいう構想というのは、今皆さんに見ていただいている「ふるさと創生プロジェクト」の事。要するにNPOに近い形でこのカンパニーを作って行こうと。純粋な株式会社、利益追求型の会社ではない。その為カンパニーという横文字を使っているけど日本語に直接訳さず、曖昧な言葉という意味で使っている。

これらを背景にカンパニー構想がどういう事をするのか改めて見ていただきたい。この地域交通サービス検討委員会は今説明した様な背景があり、厚田の地域特性を取り込んだ地域交通サービスを確立することが目的だが、この地域交通というのは今全国で大変重要な大きなテーマになっている課題。要するに高齢者が自家用車を運転すると事故を起こすという事は嫌というほど事件としてテレビで我々は見ている。では何故手放せないといったら不便だから。こんな田舎で車を転がさないと生活が不便でやっていけない。では都会はどうかと言うと都会も同じで、そう考えると地域交通というのは都会も田舎も関係ない、今日本が解決しないといけないう1番目の課題と考えられる。

よってこのカンパニー構想の中でも色んな事を考えているが、まず優先順位として1番目がこの地域交通サービスという事。その地域交通サービスにどんな機能をもたせれば良いかという事を次の項目に書いている。左上に診療所や支所、郵便局、集会所、学校という公共のエリア。それから、子ども達が学校に通う、いわゆるスクールバス、高齢者を運ぶ福祉バス、これは縦割りになっているのでそれらを自由に使うというのは難しいが、それらを含めて地域交通を回そうという事。それからスポーツやイベント、子ども達の部活の為に。子どもを送迎する時に定期的に動くスクールバスではなくて、不定期に子どもの部活等が終わった段階でまとめて、学校からそれぞれの子どもの家に向かって走る交通。それから今度は左の1番下に行くと、若いご夫婦や子ども達がいる家庭、独居老人や夫婦2人だけのご老人の家庭。それから今度はケガ人や妊婦の方、そういう車を運転できない方々に対するサービス。そういうものを全て取り扱おうと。例えばこの地域交通は人を運ぶだけではない、空気は決して運ばないというのがモットーなので、人も物も全てにおいて、或いはもっと言えば情報も乗せて走る。ですから今度は、道の駅、コンビニ、それから朝市という所で、例えば何処どこの家から朝市で頼まれた物を運ぶ。それから今度は、コンビニも或いは、もっと言えばクロネコヤマトの様なもの、そういう「物」を何処かの拠点から、HUB（ハブ）というんですが、そういうシステムを構築する。

それから農業、漁業。例えば今盛んに魚が上がっているけれど人手が足りない。そういう事の手配。車を運転出来ないけど手伝える人、そこでアルバイト出来る人を運んで行く。全て地域内の交通をデマンド交通で間に合わせようという仕組みをどうやって作れば良いか検討していくという訳です。

いつまでも検討している訳にはいけないので、次に右上の方に計画がある。11月、今月ですが、これを地域協議会で承認いただいたら、12月に第1回検討会議を開催して1月、2月、3月ここでニーズの調査をする。前回この厚田区民アンケート調査を実施したが、そのアンケート調査では生活全般を住民でライフサポートする、そういうためのアンケート調査であった。今回は実態として人だけではなく、今言った様に物も含めて流通させる為の仕組みを入れようという、人だけではなく物の物流に関わる様な人達のニーズも諮るという事です。

それで令和2年度、来年度においてもその仕組み作りをしっかりと行って行く、そして3年度にはその検証実験を行う。この令和3年度は厚田ライフサポートの更新の時期で、厚田ライフサポートの会も結構高齢化している、次に



移行する為にはどうしたら良いか考えなくてはならない。丁度タイミングとしてはそういう時期になる。

そして令和4年度から本格的な実施を開始しようと計画している。こういう取り組みは国も重要だと言っているの、国も非常に関心があるし、特に国交省はこの為に関国の都道府県に関してアンケートの調査をしながら実態調査をずっとやって膨大な資料をビックデータとして集めている。

それから道もこのモビリティに関して非常に大胆にやっており、今年十勝管内で「Ma a S」(マース)という実証実験をやっている。(モビリティ-アズ-ア-サービスの略)これはもう決済から全部スマートフォンでやってしまおうと。検索も支払いも全部そこで、そして予約も。何処から何処までと、自分の家から目的地まで行くまでをスマートフォンで予約して、それを基にしてデマンドバスが回って歩くというシステム。そういう実証実験がもう始まっている。

それからもう1つ、道は委託研究というのを今年から始めている。確か厚沢部町で、東京のティスという凄い大きい会社で、これは資本金が相当大きい、そこが地域交通に電気自動車を使う実験がもう始まった。それには日産のEV車を使っていて、これはデマンド交通だけでなく電気自動車を動かす。要するに風車、太陽パネルといった自然エネルギーを活用して、地域の中で賄える、そこでデマンドバスを走らせるという実証実験を既にやっている。委託で大会社に頼んで相当なお金をかけて厚沢部町で実験している。新自由主義の時代背景なので、こういう事をやろうという地域に対して、道も国も支援するという事がもう始まっている。

そういう事で委員は右下に書いてある様な人々によって構成し、これを1年かけて検討しよう思っている。

以上です。

#### 【 築田会長 】

事務局から内容の補足はあるか。今、地域交通サービスの検討委員会を設置して本格的に令和4年位から始めたいというスケジュールの説明があった。皆さんから質疑と言ってもなかなか難しいと思うが、こういう事が必要だと私も思うが、委員のそれぞれの声を聞かせて欲しい。

#### 【 鎌田委員 】

既に現在、似た様な事業でライフサポートがあるが、それが本当に地域に活かされた活動になっているのか、その辺のライフサポート側のこれまでの実績を教えて欲しい。事業としては住民アンケート調査からも1番必要だという、ダントツの要望なので、足として皆さんが使える「便利な田舎」の実現みたいな形で出来ればベストだとは思う。

#### 【 笹谷委員 】

これを見て率直に思うのは、結構お金がかかる事だと思って。これをボランティアという形にするのは相当厳しいなど。しっかり運営する側も収益上がる様な形にしないとなかなか継続してやっていく事は出来ないと思う。

必要性は感じるし大事な事だと思うが、本当に慎重に進めていかないと。ニーズ調査等をしっかりやっていく事がまずは大事と感じる。

#### 【 森田委員 】

計画を見ていると非常に便利で、こういうものがあれば良いなと思う。先程の話にもあった様にスマホで全部決済や申し込みが出来たりと、お年寄りの方だけでなく若い方も気軽に利用出来るのではないかなと思うので、更に幅が広がるのではないかな。ただお年寄りの方はなかなかスマホが使えないと思うので、窓口を沢山作らないといけないのではと思うが、まずは私たちが使えるのであれば是非利用したいと思う。

#### 【 小山委員 】

住民アンケート調査で出された厚田の課題を網羅しているので、後はこれを取りまとめるコーディネーター等、全部の項目をクリア出来る人材がいるのか、又は来ていただけるのか。これから委員会を立ち上げてそういう人達の募集とか結構大変な仕事になると感じる。住民アンケート調査から厚田カンパニー構想が着々と準備出来ているのに(このまま何もしないのは)やっぱりもったいないと思う。皆さんもアンケートを出してくれて、我々もアンケートを取りまとめたりと労力がかかっている、今後、高齢になっても住みたいという厚田にするため、やはり我々が動いていく必要があると思う。大変な事であるが良い委員会が立ち上がればと思う。

#### 【大内委員】

これは必要な事だと思う。住民アンケート結果を受けてこれが出来たら凄いと思う。北海道の何処か忘れたが、スマートフォンではなくて、テレホンカードみたいな物を役所か何処かに置いて、それを買ってバスとか乗っていたのを見た。スマートフォンの方が良いと思うが、そういうカードを買えばお年寄りも簡単ではと感じた。

#### 【加藤委員】

賛成。住民アンケートの結果も踏まえての事なので凄く大事な取り組みだと思う。他の方も仰った様に、凄く資金が掛かりそうとか、工夫・改善の余地が沢山あると思うので、必要最低限から、1番必要な所を整備して段々広げていく、後々色々な事が出来る様にしていけば良いのかなと思った。

#### 【丸山委員】

私は朝、(石狩小学校の)石橋校長と挨拶運動をしていて、発足便だと思うが、子どものバスに発足の女性の方1名乗車して来て、石狩方面のバス亭に行かれた。名前はわからないが石狩市のそういう柔軟な部分は非常に素晴らしいと思っていた。私は厚田学園を起爆剤に厚田区再生を真剣に考えている。それでも人が来ないと厚田学園はやっていけない。良い教育を提供して沢山子どもを厚田学園に送ってもらうには、人が増えないと駄目だと思っている。定住人口を図るために交通網を整備していただき、若い人達が沢山入って来て、どんどん厚田が良くなる交通サービスにしていなければと思う。

#### 【平賀委員】

委員会の設置に関しては賛成。ただ先程、丸山校長が言ったと思うが、実際、発足地区は名目はスクールバスだと思う。1日4、5便走っているが、それを利用して地域の方が病院に行ったりしている。ただ今の所スクールバスを使っている生徒さんが、今後中学卒業して高校に入ると、そのスクールバスがどうなるんだろうという話が何年前にあった。実際に他の地域、例えば聚富とか望来でそういうバスが走っているのかどうか自分は把握していなかった。

特に発足は高齢者が多いのでこういうサービスが出来れば活気付くのではと個人的に思う。

#### 【角野委員】

全体的な流れを見ると凄く理想的。これが実現したら困る事がないと思う。皆さんも言われていた事だが、この中心となる、理想となる所をしっかりと詰めて、ある程度流れが出来たら、移住定住で悩んでいる方や住みたいと思っている人に凄く勧めやすくなると思う。

#### 【吉村委員】

遅れて来たので内容が分からない部分があるが、今何名かの話を聞いた中では地域交通サービスの確立ですね。他の都市でもやっている事だとは思いますが、住んでいる身であれば私もいずれ年老いて老後を迎える事になると思う。将来の事を考えればやはり定住する方には大切な事だと思う。こういった委員会を設置するのも大切な事だと思うし、長い目で見た計画を立てていくべき事だと思う。

#### 【築田会長】

ありがとうございます。今日出席の委員の皆さんの意見を聞いて、概ねこの検討委員会を設置するという事で意見がまとまったと思うがよろしいか。

#### 【全委員】

全会了解

#### 【築田会長】

では質問が何点かあった。すべてに答えていただく時間はないが、まず1点ライフサポートの実績についてお話しいただきたい。

【佐藤準備会委員】

ライフサポートは2つの事業をしており、1つはバス停までの送迎、もう1つは冬場の除雪。大体通年を通して600～700件の利用実績がある。問題は今まで言って来たように対象は主に高齢者だが、やっぱり不便な、交通弱者にライフサポートとしてサービスを提供して来た。基本的にはライフサポートだから高齢者だけではなく、若い人達や今車がないのでバス停まで必要だとか、そういう人達にもくまなく提供していかなければならない。その為には、今のライフサポートの人数ではちょっと足りない。スタッフも高齢化してきて送迎するのがちょっと危ないかな、という人も増えているという事を考えると、やはりもう少しシステムを考えてやっていかないといけない。

笹谷委員から質問があった経費の問題がやはり1番大きい。これをどうするかというのが運営する時の1番のポイントになる。これは石狩市の補助金とか含めて、地域住民にどういう形で還元しながら、便利な交通網を引くかというのを、正に1年かけて検討しないとけない。

それから丸山委員、森田委員からも出た様に、定住人口を増やすのが非常に大きい目的なので、この絵に書いた様に「便利な田舎」を。田舎は元々不便で便利なんて事ありえない。でもこういう田舎の沢山の財産を持っている厚田に交通網という便利さを加えて、そしてライフサポートもする。空き家対策はこの交通の中ではしないけども、カンパニー構想の中ではやっていく。そうやって定住人口を1人でも多く、増やしていくことがこのカンパニー構想の最終的な目的であるので、そういう意味でこの定住人口を増やすためにも交通対策は大きな課題になる。

【築田会長】

質問に答えていただいた。概ね皆さんの意見として検討委員会を設置していく事では、賛同いただいたが、今回この検討委員会を協議会の中でお話したのは、地域協議会の下部組織として設置してはどうかという提案。検討委員会だけが独立して動くのではなくて、その上にちゃんと地域協議会と一緒に検討しているという中での下部組織という意味である。

反対の意見はないので全員賛成という事で。それで地域協議会からも委員を選出いただきたいということであるが、委員の中で面白そうだから私やってみようという方はいないか。一応、地域協議会から2名選出したいと思っているが、会長、副会長という訳にもいえないと思うので、委員の中から手が上がらなければ、後ほど会長から指名させていただくという事でよろしいですか。

【全委員】

全会異議なし

【築田会長】

では、指名させていただいた方については、よろしくお願ひしたい。人選については、また次回の協議会で皆さんに報告する。今日はとりあえず、交通サービス検討委員会を協議会の下部組織として設置するという事を皆さんから了解を得たので協議事項はここまでとする。

5. 報告事項

(1) 厚田区地域おこし協力隊の活用検討について

【渡邊副会長】

11月21日に第1回目の厚田区地域おこし協力隊の活用検討委員会を行った。梁田会長と私が地域協議会から委員として出席し私が委員会の委員長という事になったので若干説明させていただく。

まず来年度の採用について協議し、検討委員会委員の役割、募集スケジュール、その辺を確認した。協力隊制度の概要、導入経緯について新しい委員もいたので振り返りを行った。年内中に結論を出す為に検討会を何回か開催し、これまでの検証をしっかりと上で地域が必要とする人材を打ち出したいと考えている。

来年5月1日の採用を目指し募集要項を整備していくが、これからまだまだ詰めていく事が沢山ある。改めて地域協議会で提案させていただくのでよろしくお願ひする。

【築田会長】



第1回の地域おこし協力隊検討委員会の報告を渡邊さんからいただいた。まだ1回目の検討委員会ですので質問いただいても答えられるものが何もない状態ですので報告だけという事にさせていただきます。

## (2) 厚田区自治懇話会について

### 【佐藤主査】

私から11月11日に開催した厚田区自治懇話会について報告する。

この自治懇話会は厚田区自治連合会の主催で毎年開催しているもので、市長を招いて市の現況について市長から講和を受けるとともに、厚田区からは、地域で活動している団体の活動報告をしたのち軽食をとりながら市長とざっくばらんに意見交換を行い、今後の地域活動に生かしていこうという趣旨で開催している。

今年度は、自治連合会から12名、市役所11名、厚田区の活動報告として、望来子ども会から2名、地域おこし協力隊1名の計26名が出席。

加藤市長の講話では、主として子どもの政策に関することや、災害に関すること、着地型観光に関すること、道の駅を拠点にした厚田・浜益に関する政策などについてお話していただいた。

また、厚田区の活動報告では2件、望来子ども会から、数年ぶりに復活した望来の仮装盆踊りの取り組みについて、地域おこし協力隊の吉川さんからは、自身が目指す厚田区でのゲストハウスに関する取り組みについて報告をいただいた。

フリートークでは市長から仮装盆踊りなど地域のイベントを継続するためにはどうしたらよいか等、発表者への質問があり、その中で活動の拠点が欲しいという意見が子ども会からあった。またゲストハウスの取り組みについて、自治会の方から先進地の市町村、厚沢部町や和寒町の取り組みについて情報提供などがあった。

終始、和やかな雰囲気懇話会は終了。以上です。

## (3) その他について

### 【佐藤主査】

- ・10月、11月中に新聞や雑誌に掲載された厚田の話題について情報提供。
- ・あったかニュース第15号の発行について(11/28広報いしかり配布時に回覧)

### 【吉川委員】

- ・じゃらん12月号に掲載の「田舎マチぶらり探検隊」企画について説明。  
連載企画で前号の増毛町地域おこし協力隊からバトンを受け今回、石狩市の紹介となった。浜益の柿岡隊長と厚田区の私が両区の周遊観光について紹介した。次回は東川町の協力隊にバトンタッチ。

### 【江崎隊員】

12月8日(日)道の駅石狩「あいろーど厚田」の2階で厚田の植物を使ったリース作りを行う。講師は飛ぶ鳥農場の角野飛鳥さん。厚田キャンプ場や角野さんの山で採ったツル等の植物で作る。是非皆さんのお宅にオリジナルリースを飾りませんか、という事で興味があれば参加願いたい。

- 「厚田の植物でクリスマスツリー作り」
  - ・日時：12/8(日)、開演10:00~12:00
  - ・会場：道の駅石狩「あいろーど厚田」2階
  - ・参加費無料

### 【今野隊員】

「楽譜探しています」というチラシをご覧いただきたい。今、石狩郷土史研究会の中の校歌部会というのがあり、現存する小中高、学校とそして統廃合した小中高等学校の校歌を一つの音源、そして全部楽譜や歌詞などを載せた作詞作曲の背景や学校の歴史を載せた一つの記念誌的な冊子と、併せて全部の校歌を厚田学園、石狩八幡小学校まで含めて全部まとめたものを発行しようという取り組みをしている。そこに自分も仲間に入れていただき現存している学校については既に昨年度、子ども達に歌っていただいてCDが仮で出来ているが、統廃合した学校については私がこれから歌ってレコーディングしていく計画。チラシで一覧表になっている所が資料がまだ足りない学

校。私が歌い妻にピアノを弾いてもらうという事になったが、楽譜があるかないかというのが非常に重要で、最悪なくても歌える人がいるだけでもなんとかなる。お知り合いで歌える人を知っていたり、もし何かしら情報があれば、些細な事でもいいので私に情報をいただきたい。

また、地域おこし協力隊通信の今月号が発行されるので、お時間のある時にごゆっくりご一読いただきたい。

#### 【飯塚隊員】

飯塚です。あまり見られている方いないかも知れませんが、動画編集で最近「えりす石狩」さんの方で「アツターザン」というキャンプ場で新しく出来た施設の体験動画や「厚田の文化祭」の舞台のダイジェスト映像と、2日目の飾り結びを作っている自分の体験動画を制作してUチューブ上で、えりす石狩さんを通してあげさせていただいている。厚田の為に何が出来るかと考えた時に、地域の方の頑張りだとか、実際どういう生活をしているのかというのを発信することで、先ほどの厚田カンパニー構想や、動画を見ていただくことで移住したいと思っていただけるような仕組み作り、本とか雑誌とかでやるより、動画で見た方が誰でもわかりやすいし、その人が本気で考えているとか、そういう人達が地域にいとよりわかりやすく伝わると思うので、地域の皆さんにご協力いただき今後そういう映像を作っていきたい。また地域の団体でこういうPRをして欲しいということがあれば、私に是非ご連絡いただきたい。

#### 【吉川隊員】

吉川の地域おこし協力隊通信の中で書かせていただいているが、現在厚田区のロゴマークを制作中。厚田区のロゴマークを使うことでより多くの人達に厚田区を知ってもらいたいと考えている。色々な厚田区の特徴など出しながら試行錯誤しているところだが、厚田という漢字をもじったり、厚田の人達の気持ちを表せる様なロゴマークってなんだろうと考えながら作っているところ。例えばロゴマークが完成して、大きな旗を作ってそれが写真映える様な、観光客の人達が旗を持って厚田区にきたぞ！のような写真を撮っていただければ凄く嬉しいと思う。

またTシャツを地域の人達が買ってもらうロゴマークをお祭りや地域のイベントの時につけていただけたら、厚田の一致団結力というのを表現出来ると思っている。それ以外に何かグッズやこんなものにロゴマークがあったら良いんじゃないかとアドバイスがあれば是非教えていただきたい。

#### 【築田会長】

報告事項は以上でよろしいか。皆さんから何も無ければ事務局から次回の日程を提案をさせていただきたい。

#### 【高田課長】

私の方から12月19日(木)望来コミセンみなくるで17時からの開催を提案させていただく。

### 6. 閉会

#### 【梁田会長】

委員の皆さん、第8期がスタートしたばかりだが今後ともよろしく願います。今日の協議会は以上としたい。本日は御苦労様でした。

#### ○次回の日程について

令和元年12月19日(木) 17時00分～ 望来コミュニティセンターみなくる

令和元年12月19日 議事録確定

石狩市厚田区地域協議会

会長

梁田 敏彦